美術科

松田　真里和
共同研究者　鷲 山　　靖（金沢大学）

１．はじめに

本校では令和２年度より，新しく価値あるものを生み出すことに特化した，「創造デザイン」の学習を総合的な学習の中に設置している。現代社会は，ＡＩを含む科学技術の急速な発展により，Society5.0 と呼ばれる新たな社会へと移行しつつある。このような社会は，失業者の増加が懸念されている。予想される仕事の形態も創造的で高付加価値を生む仕事と，資産性は低いが人間側に残る仕事の二極化が進むなど，いくつかの問題が議論されている。

これらの問題を解決する一助として，本校は「創造的問題解決能力の育成」を提示している。これは既存の考えにとらわれることなく，アイデアを広げ，新たな価値を生み出すことができる能力のことを指す。

昨年度より本校は，創造デザインで育成してきた「新たな価値を創造する資質・能力」の中の「イノベーターが有する態度」を各教科等でも育てることで，より一層，創造的に問題解決を試みる生徒を育むことができると仮定している。校内研究会では，７つの態度（右記参照）を各教科等で育成する態度として想定し，各教科の授業を通して検証を進めていく。

Ａ 主体的に取り組む態度
Ｂ 自ら課題を見つけようとする態度
Ｃ 新しいものを取り入れようとする態度
Ｄ 批判的に物事を見ようとする態度
Ｅ 他者と協働する態度
Ｆ 失敗を恐れない態度
Ｇ 計画を立てて実行する態度

２．育成を目指す態度

美術科では，７つの態度の中より「C 新しいものを取り入れようとする態度」，「F 失敗を恐れない態度」の２つを研究の主題として設定している。昨年度の研究では，３年生を授業（研究）の対象として設定し，アラベスク模様（幾何学模様）の鑑賞方法についての研究を行っている。

イスラム文化を授業で取り上げる理由の一つに，昨今，イスラム国を出自とする人々が多く日本に移住してきていることが挙げられる。今までイスラム文化は日本に馴染みのない文化のひとつであったが，これから理解していかなければいけない文化のひとつだと考えられる。実際，日本において，イスラムを出自としている人口の割合は，1970 年代が約 1,000 人だったのに対し，1990 年には約 30,000 人，2020 年には 230,000 人と急速な増加傾向にある（店田，日本のムスリム人口，2025)。日本にとって馴染みのない文化を持つ人が，急速に増えているこの実態を目の当たりにし，美術科の授業で少しでも国際理解に繋げられるような授業展開を行っていく。

また，幾何学模様が世界的にも家具や衣服などの身近な模様として取り扱われていることが挙げられる。日本には飛鳥・奈良時代頃より，正倉院に保管されている生地（正倉院裂）があり，その由来はシルクロードより伝わった西アジア（現在のイスラム圏）の模様である。それらが現代にかけて保管されていることからも，古来より好まれた模様であり，今も馴染みある模様のひとつであることが伺える。

さらに，幾何学模様などの単一模様が連なる鑑賞は，外見的な鑑賞（造形的視点）にとどまりやすく，見方・感じ方は深まりにくい。連続する模様の鑑賞方法を模索することで，単純化された模様の鑑賞学習がより豊かな情操教育の一助になることも研究の意義となるだろう。

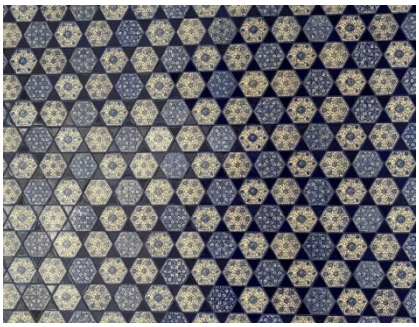
３．指導の手立てや評価方法の検討

（１）教科として取り組む指導の手立て

昨年度，「音から感じること，模様から感じること」を題材の主題とし，以下の授業を行った。

> ２０２５ 年 度
> 対 象 学 年：３年生
> 題　材　名：音から感じること，模様から感じること
> 期　　間：11 月～12 月
> 内　　容：音楽との教科横断授業として題材に取り組む。モスクを中心としたイスラム美術の役割や歴史を踏まえた上で，イスラム音楽や，モザイクを表現したといわれるドビュッシー作曲「アラベスク第１番」を聴いて，色や形などの造形的要素を意識した鑑賞を行う。

まず初めに，資料１の作品から感じたことや発見したものを鑑賞した（資料２，３）。予想通り，生徒からは，どんな形があるのか，色は何が使われているのか，何が描かれているのか，など表面的な鑑賞にとどまった。鑑賞を行う際，造形的視点（色，形，材料，光等）で鑑賞を行うことは大切である。ただ，それだけにとどまらずに，鑑賞を通して，豊かな視点・感性を育むため，教科横断の形をとり鑑賞を深めていく。



資料 1　ブルーモスク，マレーシア

資料 2

STEP 1　アラベスク模様を鑑賞して何を見つけましたか？
感じたことや、疑問に思うことなどをアウトプットして書き出してみましょう！

色はあまり使われていない　青、白、黒だけ
規則性のある形　六角形と三角形
模様は、お花とか葉とかみたいなのが描いてあって、模様は３種類だけ描かれている。

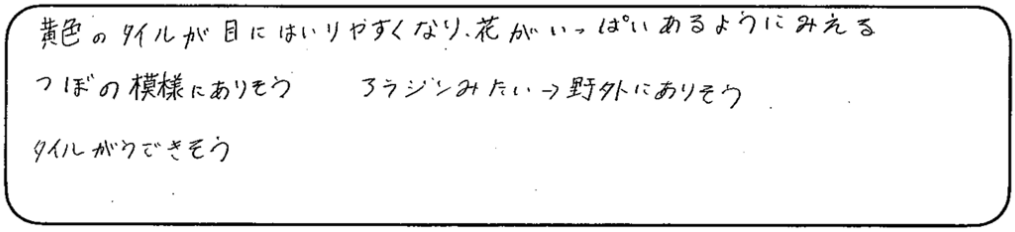
資料 3

STEP 1　アラベスク模様を鑑賞して何を見つけましたか？
感じたことや、疑問に思うことなどをアウトプットして書き出してみましょう！

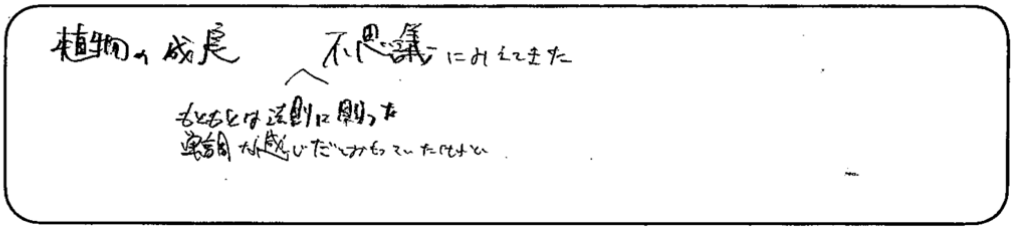
同じ模様が描かれたタイルが縦に１行、横に12個ずつきれいに並んでいる（規則性がある）
花が描かれたものが多い
磁器のようなもので出来ている

次に，２つの音楽とともに鑑賞を行った。最初の音楽は，イスラム地域の伝統音楽（祭りと思われる音楽），ジョルディ・サバール演奏『Der makāmı ʻUzzâl uṣūleṣ Devri kebīr - Mss. Dimitri Cantemir (118)』である。この音楽とともに作品を鑑賞した際，アラベスク模様（幾何学模様）の見え方が変化した。それまでは止まって見えた模様，外見的特徴を羅列した鑑賞だったが，音楽とともに鑑賞することで，模様に動きが生まれたことが記述されている（資料４，５）。

資料 4　STEP２　イスラム圏の伝統音楽とあわせて鑑賞してみよう！



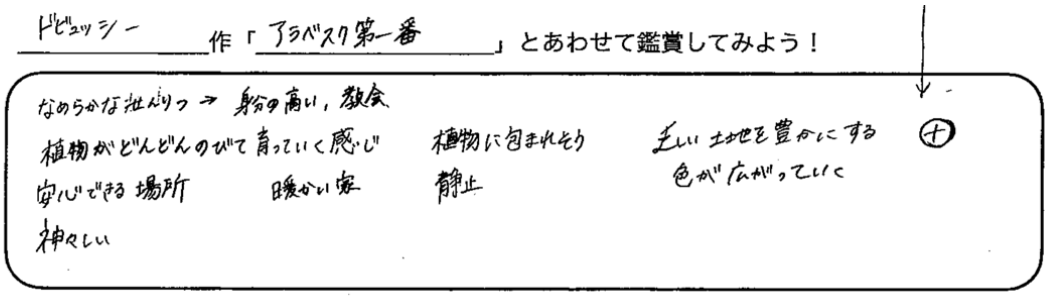
資料 5　STEP２　イスラム圏の伝統音楽とあわせて鑑賞してみよう！



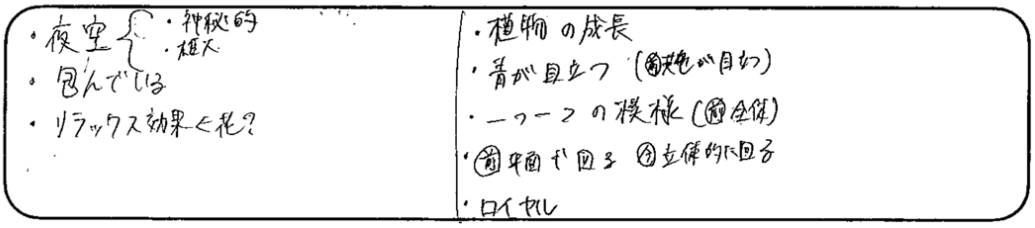
最後に，ドビュッシーの『アラベスク第１番』を聴きながらの鑑賞を行った。曲の雰囲気が変化した中で，生徒らはアラベスク模様のある空間のイメージや模様の動きに注目して鑑賞をしていた。

一番多かった感想の中に，「安心」や「リラックス」という言葉があった。何度も繰り返される穏やかな曲調の中でアラベスク模様の雰囲気が変化したと考察する（資料６，７）。

資料 6　STEP３　ドビュッシー 作「アラベスク第一番」とあわせて鑑賞してみよう！



資料 7　STEP３　ドビュッシー 作「アラベスク第一番」とあわせて鑑賞してみよう！



イスラム音楽では，艶やかな印象や踊っているなどの感想が多く見られた。同じ模様でも曲の印象によって空間の広がりや，イメージなどが変化することに鑑賞の奥深さを感じた。またそれと同時に，聴覚からの印象の強さを感じた。聴覚が生徒らの思考や考えを左右しているような瞬間もあったため，選曲は熟考する必要があると感じた。

昨年度の授業実践を通して，音楽によって作品の見方・感じ方が変化することは実証されたが，作品（視覚）の見方が深まったとはいえないことが結論づけられた。今年度は美術作品を鑑賞する中で，他領域の作品と組み合わせて鑑賞し，作品の見方・感じ方を深めていく。

（２）学年の試み

今年度も３年生を対象にアラベスク模様（幾何学模様）の鑑賞授業を研究し，昨年度の実態をもとに，授業を組み立てていく。昨年度のアラベスク鑑賞は，異なる音楽とともに鑑賞したことで，作品の見方がどのように変わったのか，鑑賞にどのような深まりが生まれたのか，という題材であった。授業の中で生徒の思考を辿ると，確かに作品の鑑賞は深まっていると言えるが，美術の造形要素を意識した鑑賞を行ったとは言い難い。

今年度は，上記のようなことにも注目しつつ、作品の造形要素をさらに意識づけさせた鑑賞の提案である。音楽にはリズムや速度，音色，強弱，旋律，調和（和音）などの要素が存在する。音楽は美術の「空間芸術」に対して「時間芸術」と言われており，時間の推移とともに変化・進行し，その中で対象となる事柄を表現している。その時間芸術を１つの場面に表現すること（空間芸術）は，中学生にはなかなかに難しいと思われる。流れていく時間の中で表現された，音楽の要素から連なる作品を，ひとつの空間に線や形で捉えていくことになるからである。ただ，言葉を連ねる鑑賞に至ってはその限りではない。

授業では，時間芸術（音楽）を言葉で捉え，言葉を空間表現（色や形等）に変換させていくことが今年度のねらいである。言語活動を通して作品（鑑賞）から作品（表現）に移行していく。

４．参考文献

１）小林一枝『「アラビアン・ナイト」の国の美術史【増補版】イスラーム美術入門』(株)八坂書房，2011 年

２）店田廣文『日本のムスリム人口』多民族多世代社会研究所，2025 年

３）滞日ムスリム調査プロジェクト https://www.imemgs.com/masjid/833/ 最終閲覧日 2025.09.01

４）中村圭志『教養としての世界３大宗教』共同印刷株式会社，2019 年２月

５）HalalJapan.jp「金沢に県内初のモスク 外観 町並みに配慮 石川県」
https://halaljapan.jp/halalnews140819-2-1942.html 最終閲覧日 2025.09.01

６）文部科学省 『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開-未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現』2022 年３月

７）文部科学省 中央教育審議会「新しい時代の初等中等教育の在り方について(諮問)」2019 年４月 17 日

８）文部科学省 中学校学指指導要領（平成 29 年告示）解説『総合的な学習の時間編』2017 年７月

９）文部科学省 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説『美術編』2017 年７月

10）文部科学省『「指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校美術』2020 年３月

５．単元計画・学習指導案

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
１．導入 ●イスラム美術を理解する。 ・他の宗教との比較をして，共通点や相違点を考える。 ・模様にはどのようなものがあるのか調べ学習を行う。	知			知　モザイクの形や色，組み合わせなどの性質や，全体のイメージから，宗教建築に用いられる効果を理解している。【共通事項⑴イ】 ・色や形などの造形的視点を意識させ，他宗教との違いを考えさせる。
２．鑑賞 ●２つの音楽を鑑賞する。 ・イスラムの伝統音楽を鑑賞し，言葉でその様子を表してみる。 ・ドビュッシー作『アラベスク第１番』を鑑賞し，言葉でその様子を表してみる。 ・それぞれの音楽が表すアラベスク模様（幾何学模様）を調べてみる。		鑑		鑑　宗教音楽との関わりや，モザイクを表した他領域の作品と併せて鑑賞することで，造形的な美しさを感じ取り，安らぎや生活などの視点から日々の生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして見方や感じ方を深めている。【Ｂ鑑賞イ(ア)】 ・２つの音楽から感じられる要素を言語化し，その言語活動を通して，美術の造形要素と関連付けさせて鑑賞を行う。 ・音楽から感じる色や形などを具体的な画像や写真を通して具現化させる。
		鑑	態鑑	
３．作図（制作） ●鑑賞から作図へ ・音楽の要素と造形要素を関連させ，単純模様の作図を行い，アラベスク模様（幾何学模様）の制作を行う。	知	発		発　アラベスク模様の構成やモスクやインテリア，服飾などの装飾の目的を基に，対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し，美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え，表現の構想を練っている。【A 表現イ(ア)】
４．まとめ ・ふりかえり 自身の意識がどう変わっていったのか，学習したことや自分の意識変化などを中心に書かせる。			態鑑 態表	態鑑　態表 日本とは異なった文化の鑑賞に主体的に取り組み，他宗教と比較しながら，鑑賞と表現を通して異文化を愛好する心情を高めようとしている。